

村を知り、人を知る 「ふるさとの担い手交流会」



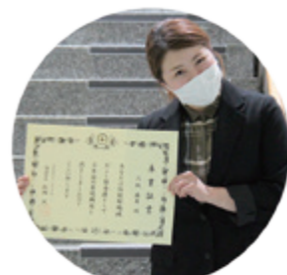
(上) 村の文化について興味や疑問を話したり知識を伝えたり。(右) 交流の中で特技を披露する人も。



12月4日、交流センター「ふれ愛館」で、『ふるさとの担い手交流会』を開催しました。この交流会は、近年村に移り住んだ村民と、長く暮らしている村民とが、「ふるさとの担い手」として共に村を学び親交を深めようと企画したものです。

参加者はまず一人ひとりが自己紹介。その後3つの班に分かれ、村の文化をテーマに、それぞれの立場で語り合い、新たな出会いを楽しみました。

地域おこし協力隊の任期を満了 二瓶麻美さんが次のステージへ



ものづくりをテーマにしたマルシェ型イベント「山の向こうから」の開催などで活躍してきた飯館村地域おこし協力隊の二瓶麻美さん(大倉)が、3年間の任期を満了し11月30日に協力隊を卒業しました。

卒業式は同29日に村役場で行われ、高橋副村長から卒業証書を受け取った二瓶さんは、活動を振り返り「村の皆さんに本当によくしていただきました」と涙し感謝を述べました。



協力隊の仲間や役場職員が二瓶さんの卒業を見守りました。P20の二瓶さんの記事もご覧ください。

イタネちゃん×飯館言葉 村公式LINEスタンプを新発売!



標準語バージョンと方言バージョンの2セットがあります。それぞれ50コイン(120円)で購入できます。画像は方言バージョンのスタンプです。



12月14日、LINE(ライン)アプリ内で、飯館村公式ラインスタンプの販売を開始しました。村公式キャラクター「イタネちゃん」と村の方言を組み合わせ合わせたユニークなスタンプです。

ラインスタンプを家族や友人とご利用いただくことにより、イタネちゃんの魅力発信やPR、村を知り楽しむきっかけづくり、移住定住の促進や交流人口の創出などへつなぐことを目的としています。

LINEアプリ内のスタンプショップから、「イタネちゃん」と検索してみてください。

村産あぶくまもちのおむすび 県内のセブンイレブンで販売



(上) 内堀雅雄知事(右から3人目)と共に。(右)「舞茸入り五目おこわおむすび」と「赤飯おこわおむすび」をPR。

12月1日、飯館村産のもち米「あぶくまもち」を使用したおこわおむすびの発売にあたり、村や生産者など関係者一同で、福島県知事を表敬訪問。完成した2種のおこわおむすびを披露しました。

「あぶくまもちを村の農業復興のシンボルに」という思いが、株式会社セブンイレブンジャパンとの連携により商品化へとつながりました。おむすびは、道の駅までい館のセブンイレブンをはじめ、川俣町と福島市の72店舗で限定販売され、大好評につき予定されていた3万個を完売しました。



農畜産業の復興と発展へ 農業施策に関する意見書を提出



農業委員会を代表して、菅野啓一会長(写真右/比曾)から杉岡村長へ、意見書が提出されました。

12月20日、飯館村農業委員会から村へ、『令和4年度飯館村農業施策に関する意見書』が提出されました。営農再開農地面積が震災前の約30%に留まっている現状から、農畜産業の復興と発展をさらに力強く進めるために意見したものです。

今回提出された意見書には、「営農再開に向けた事業施策の促進」「水田活用の直接支払交付金」「畑の利用促進」の3点について示されています。村は意見書を踏まえ、営農環境整備や国への働きかけ、村独自の支援などに取り組んでいきます。

「美しい村」連合の仲間へ 災害義援金をお届けしました



川根本町・園田町長から届いた手紙には感謝の言葉と復興への思いが綴られています。



今年9月に発生した台風15号は、東日本の太平洋側に大雨の被害をもたらしました。東海地方には線状降水帯が出現、静岡県では複数の地点で24時間雨量が400mmを超え被害が多発しました。

村は職員間で募金を行い「日本で最も美しい村」連合を通して被災地に義援金を送り、このたび静岡県川根本町からお礼の手紙を受け取りました。

飯館村もまた多くの市町村から支援をいただき、復興を歩んできました。感謝を忘れず、仲間と支え合い、今後も進んでいきたいと考えています。